

金沢市スポーツ推進計画

「スポーツで人とまちを
元気にするまちづくり」をすすめます

はじめに

金沢市では、市民がいつでも、どこでも、いつまでもスポーツに親しめるよう、「市民の生涯スポーツライフの充実」、「生涯スポーツ社会の実現」を基本理念に掲げ、平成17年3月に「金沢市民スポーツ振興計画」を策定し、スポーツの振興に努めてまいりました。

スポーツに親しみ、スポーツを楽しむことは、現代社会において心身ともに健康で豊かな生活をおくる上で欠かすことのできないことであり、体力の向上や健康の維持を目的にスポーツをされている方も多く、また、競技スポーツに力を注ぎ、競技力向上を目指してスポーツに打ち込んでおられる方もいます。こうした方々が、日々の生活の中でそれぞれの目標に応じてスポーツに取り組めるように、この度「金沢市スポーツ推進計画」を策定しました。

計画策定にあたっては、平成23年8月に制定されたスポーツ基本法に基づいて策定された国のスポーツ基本計画を参酌し、「スポーツを通じて市民が幸福で豊かな生活を営むことができる社会」を創出するため、10年後のスポーツの姿として、スポーツが充実した市民生活とまちの活力を生み出す一翼を担う、スポーツが文化として認識されている社会の確立を目指すこととし、“スポーツで人とまちを元気にする”まちづくりを推進することとしております。

2020年東京オリンピック・パラリンピックの開催が決まり、これから市民のスポーツへの関心が一段と高まります。今後10年は、スポーツを生活の中に取り組むことが一層活発化されることでしょう。このようなスポーツ気運の上昇に対して、効果が持続するよう、スポーツ関係団体をはじめ、多くの関係者の皆様のご支援・ご協力をお願い申し上げます。

終わりに、本計画の策定にあたり、ご審議をいただきました「金沢市スポーツ推進審議会」および「金沢市スポーツ推進計画策定検討会」の委員の皆様をはじめ、関係の方々に心から感謝を申し上げます。

2015年(平成27年) 3月

金沢市長 山野 之義

目 次

第1章	金沢市スポーツ推進計画の基本的事項	
	1. 計画策定の背景と目的	1
	2. 計画の位置づけ	2
	3. 計画の期間	2
第2章	計画の基本的な方向	
	1. スポーツをとりまく現状と課題	3
	2. 計画の展望と基本目標	6
	3. 計画の取り組み	9
第3章	計画の実現にむけて	
	1. 計画の推進	16
	2. 計画の評価と見直し	16
資料編		
	1. 金沢市スポーツ推進計画策定経過	18
	2. 金沢市スポーツ推進計画策定検討会委員	18
	3. 金沢市スポーツ推進審議会委員	19
	4. 「金沢市民のスポーツ意識に関する調査」の概要	19
	5. 「金沢市民のスポーツ意識に関する調査」結果	21

1 計画策定の背景と目的

金沢市は、平成3年石川県で開催された国民体育大会を契機として、「健康スポーツ都市金沢の実現」を目標に、平成5年3月に「金沢市民スポーツ振興計画」を策定し、各種スポーツ事業の実施やスポーツ施設の整備を進めて参りました。

平成17年3月には、平成12年9月に文部大臣が『生涯スポーツ社会の実現』という21世紀に対応した新しい我が国のスポーツの展望を掲げた「スポーツ振興基本計画」を参考にしつつ、第二次「金沢市民スポーツ振興計画」を策定しました。この計画においては、「金沢市民にとっては『市民の生涯スポーツライフの充実』」「金沢市にとっては『生涯スポーツ社会の実現』」を基本理念として、すべての市民がいつでも、どこでも、いつまでも、個人の関心や目的、体力に応じて運動やスポーツに親しむ社会を目指しました。また、各種スポーツ事業の充実とスポーツ施設の利便性の向上などスポーツの推進に取り組んで参りました。

平成23年8月、国は「スポーツ振興法」を50年ぶりに全面改正し、「スポーツ基本法」を施行しました。スポーツに関する基本理念を定め、国及び地方公共団体の責務とスポーツ団体等の努力等を明らかにしたこの法律は、スポーツが「世界共通の人類の文化である」ことを宣言し、スポーツを通じて幸福で豊かな生活を営むことが「全ての人々の権利である」ことを初めて明記しました。これは我が国のスポーツ政策上大変重要な基本理念であり、スポーツ立国をめざす歴史的な国家戦略であると評価されています。

一方、金沢市は平成26年2月に「世界の『交流拠点都市金沢』重点戦略計画」を策定し、「スポーツの振興・拠点整備」を重要方針の一つとして掲げました。

金沢市は、スポーツ基本法が定めた基本理念に従うとともに、金沢市の「世界の『交流拠点都市金沢』重点戦略計画」に基づき、時代の要請と本市がめざす近未来の実現、そして何よりも金沢市民のスポーツライフの充実のために、先の計画の精神を引き継ぐ第三次スポーツマスタープランとして「金沢市スポーツ推進計画」を策定します。

2 計画の位置づけ

本計画は、スポーツ基本法第10条の規定に基づき、国の「スポーツ基本計画」及び県の「石川の教育振興基本計画」を参酌し、地方の実情に即したスポーツの推進に関する計画として策定するものです。

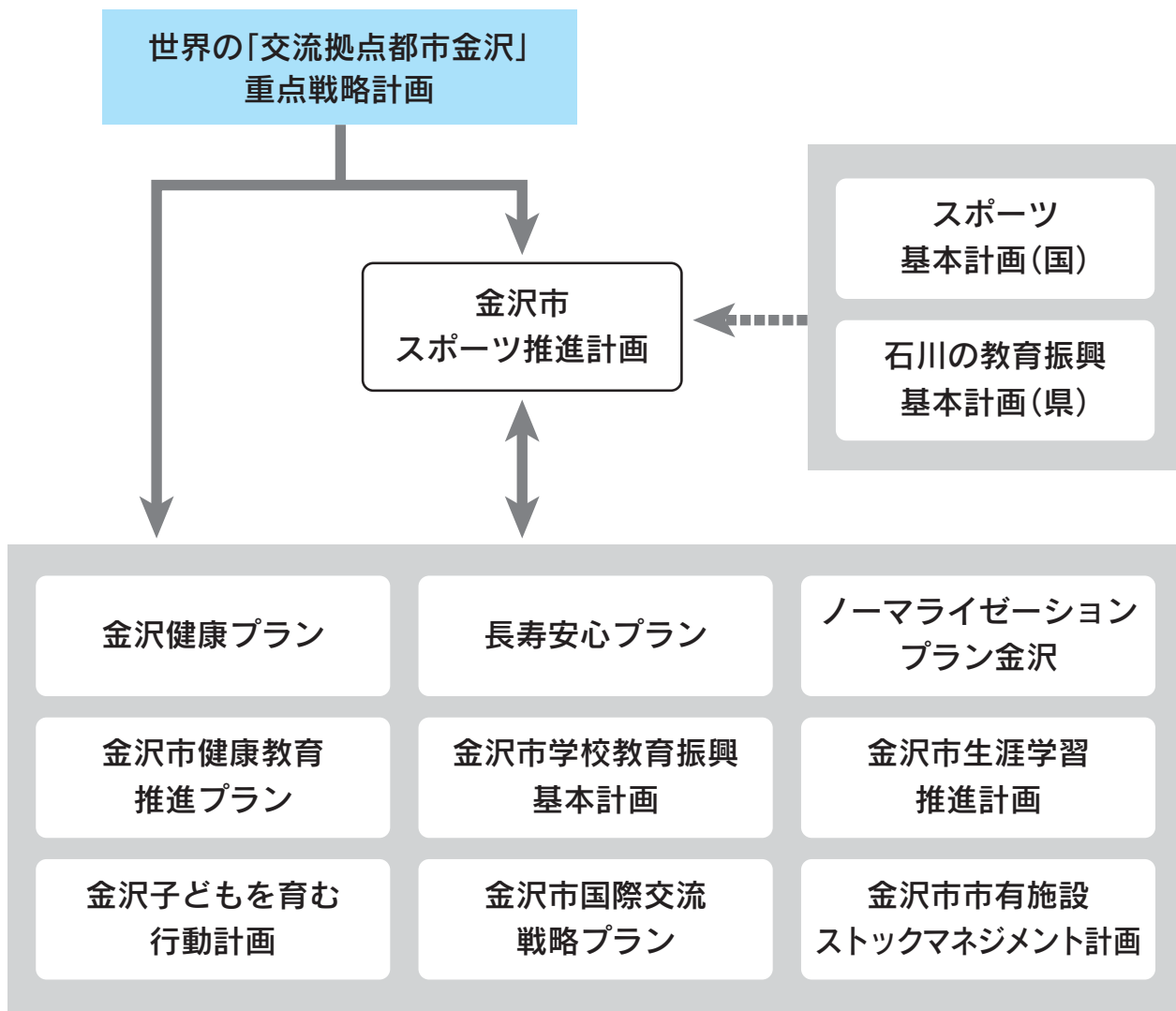


図1 金沢市関連各種計画・プラン

3 計画の期間

本計画の期間は、平成27年から平成36年まで10年間とします。

なお、5年を目途に中間評価を行い、計画を推進する過程において、社会・経済情勢など環境の変化により、新たな施策の展開や見直しが必要となった場合には、柔軟に対応していくこととします。

1 スポーツをとりまく現状と課題

(1) 金沢市のスポーツ活動の現状

金沢市は、平成17年3月に第二次「金沢市民スポーツ振興基本計画」を策定し、「金沢市民にとっては『市民の生涯スポーツライフの充実』」「金沢市にとっては『生涯スポーツ社会の実現』」を基本理念として市民スポーツの推進に取り組んできました。

市民の生涯スポーツライフの充実を評価する成果目標として、「成人の週1回以上の運動・スポーツ実施率を70%以上にする」と掲げ、平成26年7月現在で52.6%を達成しました。しかし、この数値は本市が成果目標設定の基準とした国の「スポーツ振興基本計画（平成12年9月）」において示された「2人に1人」をクリアすることができたものの、国が「スポーツ基本計画（平成24年度）」で示した「3人に2人」を到達することはできませんでした。

表1は、運動・スポーツを1週間に1回以上実施した者の割合について2004年と2014年を比較して示しています。「2人に1人」すなわち50%を基準として市民の運動・スポーツ実施状況を全体・性別・年代別にみると、全体・男女ともに50%を超えることができました。年代別にみると、20代・40代・50代で50%を下回り、全ての年代において50%を超えることはできませんでした。平成17年に金沢市が目標値として示した70%は、国が平成24年度の65%を先取りした数値目標と同じ「3人に2人」を根拠としています。このことから分かるように、50%はあくまで通過点であり、より多くの市民が運動やスポーツの効果を感じ、より一層スポーツに親しむことが求められています。「この1年間に運動・スポーツ実施しなかった」者の割合は、2004年の27.2%から2014年には25.7%に減少したものの、依然として高い割合にあると言えます。より多くの市民が運動やスポーツの効果を実感して、市民の生涯スポーツの質が向上するよう引き続き取り組むことが求められています。

表1 運動・スポーツを1週間に1回以上実施した者の割合(2014年と2004年の比較) (%)

調査年	全体	男性	女性	20代	30代	40代	50代	60代	70代
2014年	52.6	53.7	51.7	49.7	50.2	49.4	48.0	56.9	56.7
2004年	49.2	49.5	48.8	49.5	48.0	50.6	46.8	56.7	42.5
増減	3.4	4.2	2.9	0.2	2.2	-1.2	1.2	0.2	14.2

生涯スポーツ社会の実現を評価する成果目標として、「総合型地域スポーツクラブを地区公民館のブロックごとに設立する」と掲げ、平成27年3月末現在で14クラブが設立されました。これはクラブ所在地でみると6ブロックにおいて設立されたことになるものの、活動エリアでみたときには7ブロックをカバーしていることから、ほぼ目標達成できたと評価しています。

この総合型地域スポーツクラブは、市民組織によって自主運営される市民のためのスポーツ組織です。この10年間に目標をほぼ達成することができましたが、決して十分ではありません。「総合型地域スポーツクラブということばを聞いたことがある」者の割合は14.8%と、依然として低い値にとどまっています。総合型地域スポーツクラブだけが市民スポーツを支える組織ではありませんが、市民が中心となって市民のスポーツライフを充実しようとするチャレンジがより一層広がっていくことが期待されます。金沢とその周辺には、民間のフィットネスクラブが全国平均以上の店舗数を構えており、多くの市民が会員として運動を続けています。金沢市民の運動やスポーツを考えると、多様な機会が用意されていることが何よりも大切です。民間のフィットネスクラブ、総合型地域スポーツクラブ、市体育協会や競技団体等が運営する大会に参加する各種クラブチームなどのスポーツ関係団体によって、運動やスポーツに親しむ機会が一層拡大することが求められています。そして、「運動は心と体の健康に寄与する」「スポーツは仲間との友情を育み、チャレンジする心を満たしてくれる」「スポーツの賑わいがまちを元気にする」などの効果が広く市民に共有され、「スポーツはまちづくりに貢献する」という機運が、金沢マラソンの成功とともに広がっていくことを期待したいものです。

表2 金沢市民スポーツ振興計画「施策の体系」

基本理念	基本目標	取組みの方向
『市民の生涯スポーツ社会の実現』 『市民の生涯スポーツライフの充実』	1. 生涯スポーツに親しむ市民の育成	(1) 市民のスポーツに関する意識の啓発
		(2) 生涯スポーツリーダーの育成
		(3) 生涯スポーツ組織の育成
		(4) スポーツに親しむ子どもの育成
	2. 生涯スポーツ社会の実現に向けたスポーツ活動体制の充実	(1) 生涯スポーツライフの実現に向けた支援者の育成
		(2) 競技力向上のための支援
		(3) 小・中学校スポーツ活動の質的向上に向けた支援
		(4) 高齢者や障がいのある人がスポーツに親しめる体制の充実
		(5) ニーズに対応したスポーツプログラムの充実
		(6) 特色ある地域スポーツづくりへの支援
		(7) 体力測定診断、スポーツ傷害対策の充実
		(8) 働き盛りの世代がスポーツに親しめる体制の充実
	3. 市民がスポーツに親しむための情報サービスの向上	(1) スポーツ情報の充実
		(2) 市民スポーツデータベースの整備
		(3) スポーツ行政の効率化
	4. 既存施設の有効活用と新たな施設の整備	(1) 施設利用の効率化
(2) 施設のリニューアル		
(3) 快適なスポーツ施設の新設		

(2) スポーツをとりまく課題

金沢市は、運動・スポーツ実施率が伸び悩む中間年の平成21年度に5つの重点課題を設定し、市民の生涯スポーツライフの充実が進展するよう取り組みを強化いたしました。

- ① 市民の運動・スポーツ実施につながる広報の充実
- ② 誰もが参加できる運動・スポーツキャンペーンの実施
- ③ 地域を重視した運動・スポーツ活動の促進
- ④ 既存施設の有効利用方法の見直し
- ⑤ 市民と市の協働による市民スポーツの振興

その要点の第一は、運動・スポーツ実施につながる広報の充実です。運動・スポーツ実施率が伸びなかった原因の一つは、運動・スポーツ実施率の向上を掲げて取り組んでいることを市民に十分周知できていなかったのではないかとことです。

第二は、市民が愛好し誰もが参加しやすいウォーキングに焦点を当て、もっと広報に力を入れるべく、キャンペーンとして発展させるポスターを作成して市内各所に配布しましたが、その効果は限定的であったかもしれません。継続して取り組むことが必要です。

その第三は、地域を重視した運動・スポーツ活動の促進です。7つの公民館ブロックで連携を進めることで総合型地域スポーツクラブの設立を加速できる可能性があると考えました。まだまだ取り組みが始まったばかりであり、継続して取り組むことが必要です。スポーツ振興法がスポーツ基本法に改正されたことに伴い、体育指導委員がスポーツ推進委員に名称変更され、新たに「スポーツ推進のための事業の実施に係る連絡調整」という役割が付加されました。金沢方式と呼ばれる各公民館選出のスポーツ推進委員の今後の活躍に期待されるところです。

第四は、既存施設の有効利用方法の見直しです。夜間や休日に開放されている学校施設は市民にとって最も身近なスポーツ空間です。より多くの市民がこれらの施設を活用し、スポーツに親しむ機会を拡大することが期待されています。

第五は、市民と市の協働の促進です。20世紀のスポーツ行政は行政主導で展開されてきたと言えます。しかし、21世紀を迎えると総合型地域スポーツクラブのような市民組織が自主運営する取り組みが確実に広がってきています。市民の多様なニーズに応えるために、行政ではカバーしきれない地域の様々な課題を丁寧に掘り起こしながら、行政と連携し協力を得つつ、これらの解決を図っていくことが新しい地域づくりの方法論として浸透しつつあります。スポーツに関わる領域でも先進的なチャレンジとして、市内の隅々まで手が届くような協働を進めていくことが求められています。

スポーツ基本法が示した「スポーツの文化性の重視」と「スポーツ権の尊重」という基本理念は、変化する社会に適応するための体育的効用を重視する健康体力論的理解のみならず、人間の可能性を追求し人間的成熟を求める自己目的的なスポーツ文化論的展開を示唆しています。言い換えれば、単にスポーツが健康のために「必要」であるからばかりではなく、スポーツ文化が人間の「可能性」を拡大するものとして捉えることを求めています。すなわち、市民の誰もがスポーツが自らを成熟させる文化の一つとして捉え、

主体的自発的にスポーツと良好な関係を構築しつつ、スポーツ多様に親しむことが期待されています。市民が自らの関心と目的によって自在にスポーツに親しめるあらゆる機会の提供と環境整備が、市民のスポーツライフを支援する本市の責務であり、スポーツ関係団体や民間スポーツ組織等と連携しつつ取り組むことが求められています。そして、これらが実現されるとき、市民のスポーツを通じた交流が拡大し、スポーツがまちづくりの一つとして認知され、本市がめざす世界の「交流拠点都市金沢」のスポーツの振興を通じた魅力づくりの実現に寄与するものと確信します。

第二次金沢市民スポーツ振興計画の基本理念は、「金沢市民にとっては『市民の生涯スポーツライフの充実』」「金沢市にとっては『生涯スポーツ社会の実現』」でした。この10年を振り返るとき、果たして市民の生涯スポーツライフは充実したと評価できるでしょうか。金沢市の生涯スポーツ社会は実現したと評価してよいでしょうか。成果目標の達成状況に示したとおり、市民のスポーツライフにおいても、市の生涯スポーツ社会の実現においてもまだまだ道半ばであり、通過点であると言わざるを得ないでしょう。スポーツの文化としての可能性を支持し、世界の交流拠点都市金沢の実現を目指して、第二次計画を一層発展させつつ、本市のスポーツ推進が市民の生涯スポーツライフの充実を前進させ、併せて生涯スポーツ社会の実現に近づけるよう、市民組織や民間企業などの本市におけるあらゆるステークホルダーの協力を得ながら、役割を分担しつつ、目標を共有してスポーツを推進していくことが求められています。

2 計画の展望と基本目標

国の「スポーツ基本計画」では、計画を推進するに当たって「スポーツが果たす役割」と「スポーツを通じて目指す社会」を明記し、その実現に向けたスポーツ推進の方針を決定しました。

スポーツは、体を動かすという人間の本源的な欲求に応え、精神的充足や楽しさ、喜びをもたらすという内在的な価値を有するとともに、青少年の健全育成や地域社会の再生、心身の健康の保持増進、社会・経済の活力の創造、我が国の国際的地位の向上など、国民生活において多面にわたる役割を担うものとしています。

このようなスポーツの役割の重要性を踏まえ、「スポーツを通じてすべての人々が幸福で豊かな生活を営むことができる社会」の創出を目指していくことが必要とされ、その具体的な社会の姿として「スポーツ基本計画」には以下の5つが掲げられています。

1. 青少年が健全に育ち、他者との協同や公正さと規律を重んじる社会
2. 健康で活力に満ちた長寿社会
3. 地域の人々の主体的な協働により、深い絆で結ばれた一体感や活力がある地域社会
4. 国民が自国に誇りを持ち、経済的に発展し、活力ある社会
5. 平和と友好に貢献し、国際的に信頼され、尊敬される国

こうした社会の実現には、国をはじめ、独立行政法人、地方公共団体、学校、スポーツ団体及び民間事業者など、スポーツに関する多様な主体が連携・協働して、スポーツの推進に取り組んでいくことが重要であるとされています。

金沢市は、国が示したスポーツの役割とスポーツを通じて目指す社会像を支持しつつ、金沢市民にとって好ましいスポーツの推進と本市にとって望ましいスポーツとなる金沢市スポーツ推進計画の策定を目指します。とりわけ、10年後に実現できている金沢市民のスポーツのあるべき姿を描きつつ、この計画を策定しました。

本市のスポーツ活動の現状を踏まえ、今後、本市においてスポーツを推進していくうえでの主な課題は以下のとおりです。

- ① スポーツに親しむ機会の充実
- ② スポーツ施設の確保
- ③ 子どもの体力向上
- ④ 人材の育成・機会の充実
- ⑤ スポーツ交流を通じたまちづくりの促進
- ⑥ スポーツ情報における広報の拡充
- ⑦ 障がいのある人等のスポーツ活動の支援

こうした課題への対応について広く検討し、各々の課題に対する環境づくりや支援策等に取り組む必要があります。

本計画は、スポーツの推進の重要性を理解し「スポーツが生涯にわたって親しむことができる文化であり、スポーツを通じてすべての市民が幸福で豊かな生活を営むことができる社会」を創出するため、「年齢や性別、障がい等を問わず、市民が関心や適性等に応じてスポーツを多様に親しめる環境を整備すること」を基本的な政策課題として、次の4つの基本目標と18の取り組みの方向性を設定し、10年後のスポーツの姿として、スポーツが充実した市民生活とまちの活力を生み出す一翼を担う、スポーツが文化として認識されている社会の確立を目指すとともに、「スポーツで人とまちを元気にする」まちづくりをすすめます。

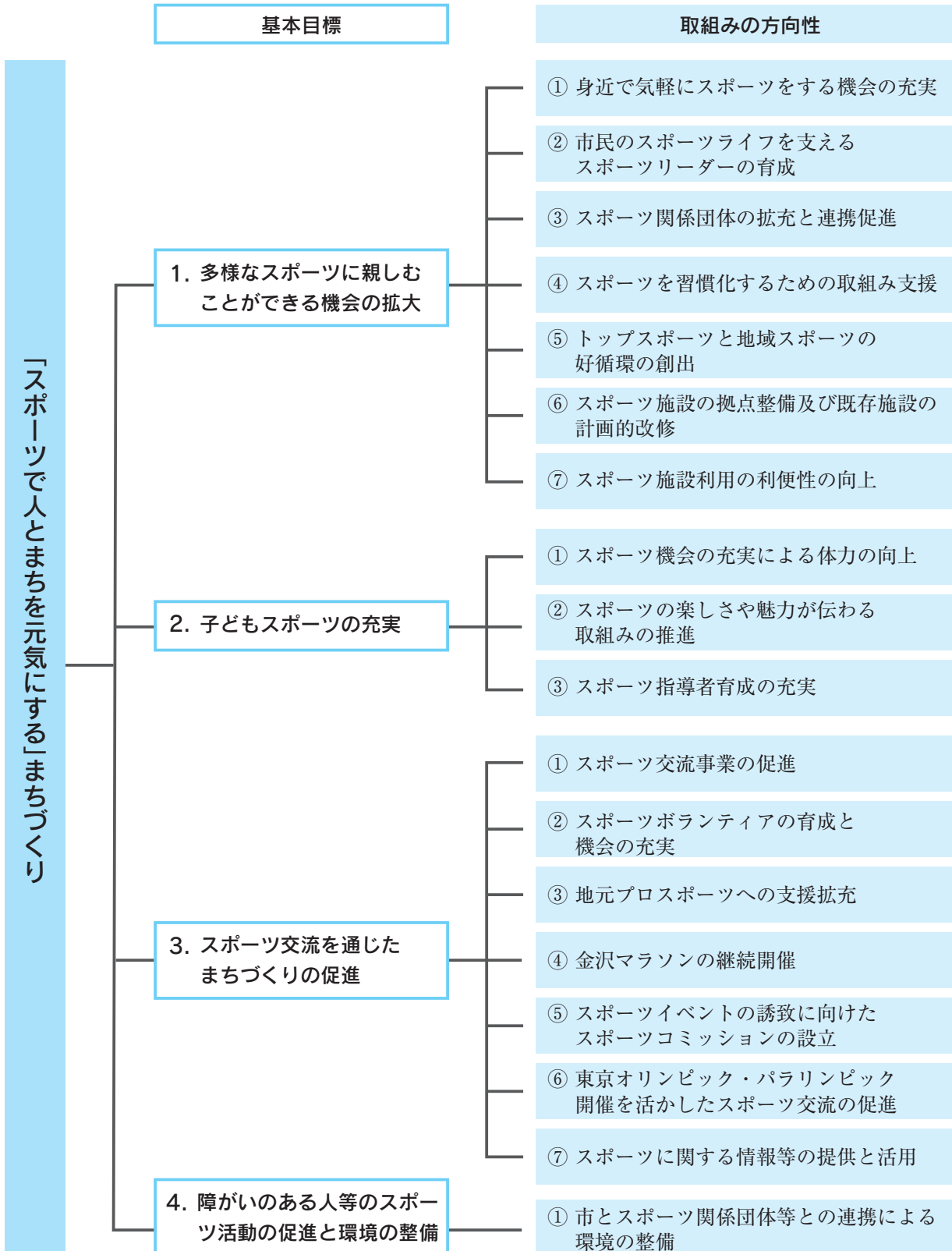


金沢市の目指す10年後のスポーツの姿

「スポーツで人とまちを元気にする」まちづくり

スポーツが充実した市民生活とまちの活力を生み出す一躍を担う、スポーツが文化として認識されている社会の確立を目指す。

計画の体系



3 計画の取り組み

基本目標

1

多様なスポーツに親しむことができる機会の拡大

【10年後の姿】

金沢市民の関心や目的に応じて、スポーツを多様に親しむ機会が拡大し、スポーツに親しむ効果が広く市民に理解され、スポーツを愛する市民が増加しています。

市民のスポーツを支援するリーダーや地域スポーツクラブ等のスポーツ関係団体の活動が活性化するとともに、民間スポーツクラブとの連携が促進してスポーツを習慣化する多様なプログラムが増大しています。

また、新しいスポーツ施設の拠点整備や既存施設のリニューアルにより、施設機能が強化され、施設利用の快適性や利便性が向上しています。

その結果、1週間に1回以上スポーツに親しむ市民が3人に2人以上となっています。

取組みの方向性

(1)身近で気軽にスポーツをする機会の充実

身近な公共空間やスポーツ施設等において、市民が気軽にスポーツを楽しめるよう、各種スポーツ団体と連携しつつ、参加しやすいスポーツ機会の充実を図ります。

〔事業展開〕

- ・ 地域スポーツクラブが提供するスポーツプログラムの支援
- ・ スポーツ関係団体が提供する大会の支援
- ・ かなざわスポーツフェスティバル^(※注釈)の開催
- ・ 公民館のスポーツ機会の充実
- ・ 学校施設開放の充実

(2)市民のスポーツライフを支えるスポーツリーダーの育成

金沢市民のスポーツライフを充実させるには、リーダーシップを持った人の育成が不可欠です。地域スポーツ推進の連絡調整を担うスポーツ推進委員のスキルアップを図るとともに、市民のスポーツライフの充実を支援するリーダーの養成に取り組みます。

〔事業展開〕

- ・ スポーツ推進委員の機能の強化
- ・ 地域スポーツコーディネーター育成研修の開催
- ・ スポーツリーダー養成講座の開催
- ・ 市体育協会及び加盟団体を通じたスポーツリーダー育成の組織づくり

(3) スポーツ関係団体の拡充と連携促進

金沢市民のスポーツを推進するためには、地域スポーツクラブ等のスポーツ関係団体の数が増大し、市民のスポーツライフを支える機能が拡大することが必要です。市体育協会をはじめとする競技スポーツ団体のほか、自主運営によって設立され地域スポーツクラブ等の設立と機能強化を支援し、これらスポーツ関係団体等の連携と協働が進展し、市民を対象とした多様なスポーツプログラム等が充実するよう支援します。

〔事業展開〕

- ・ 競技スポーツ団体等への支援
- ・ 地域スポーツクラブ等の設立支援
- ・ スポーツ関係団体間における連携の促進

(4) スポーツを習慣化するための取組み支援

個人や仲間とスポーツを日常的に習慣として親しむ環境の整備・充実に取り組みます。また、民間スポーツクラブを含むスポーツ関係団体と連携し、市民の運動習慣の形成とそれを促進するための広報に努めます。

〔事業展開〕

- ・ スポーツを習慣化するプログラムの支援
- ・ 公共スポーツ施設と民間運動施設の有効活用
- ・ 民間スポーツクラブやスポーツ関係団体との連携の強化
- ・ 金沢ウォークの開催
- ・ 運動習慣の形成を促進する広報の充実

(5) トップスポーツと地域スポーツの好循環の創出

トップをめざすアスリートと組織を支援します。また、トップアスリート（※注釈）やスポーツ大使（※注釈）によるスポーツ教室等の開催により、市民とアスリートの交流機会を拡大します。これらを通じて、トップスポーツ（※注釈）と市民のスポーツと Win-Win の関係となれるよう好循環の創出に努めます。

〔事業展開〕

- ・ 市体育協会及び加盟団体を通じたトップスポーツへの支援
- ・ スポーツ大使の委嘱
- ・ トップアスリートと市民との交流イベントやスポーツ教室の開催

(6) スポーツ施設の拠点整備及び既存施設の計画的改修

市民ニーズに応じた多様なスポーツ活動ができるスポーツ施設を整備するとともに、既存のスポーツ施設を有効に活用できるよう、その改善を図りながら計画的に改修を行います。

〔事業展開〕

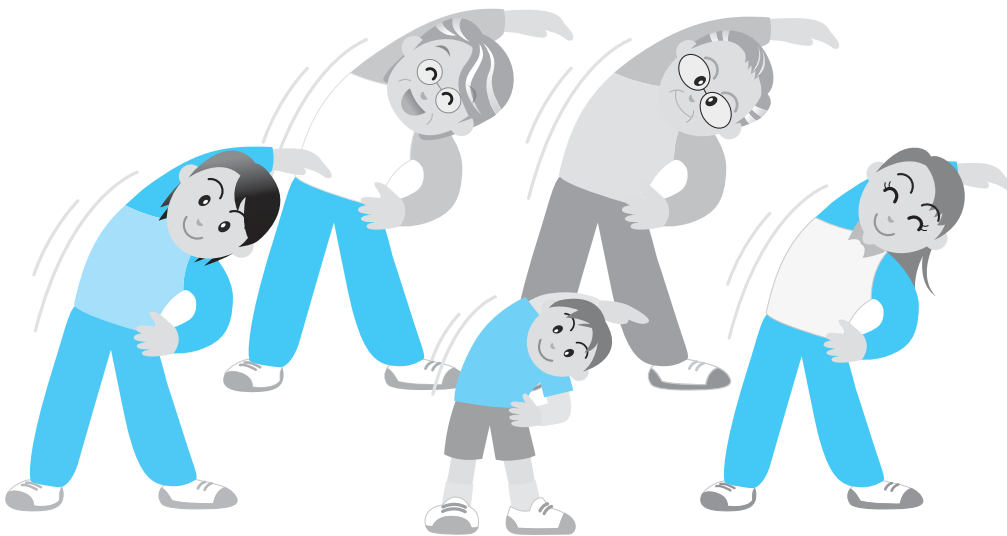
- ・ スポーツ施設の拠点整備
(城北市民運動公園の本格整備、内川・戸室スポーツ広場の整備、安原ボールパークの整備 等)
- ・ 既存スポーツ施設の計画的改修

(7) スポーツ施設利用の利便性の向上

スポーツ施設が有効に活用できるよう、利用手続きの改善を図ります。また、利用時間の区分を見直すなど、運用面での改善を図るよう取り組みます。

〔事業展開〕

- ・ スポーツ施設利用案内予約システムの改良
- ・ スポーツ施設利用時間の効率化
- ・ スポーツ施設利用の快適性向上に向けた機能の強化
- ・ 学校施設開放の充実



基本目標

2

子どもスポーツの充実

【10年後の姿】

金沢の子どもたちの誰もがスポーツの楽しさを体験し、その魅力を理解することにより、スポーツへの関心を高め、スポーツに取り組む習慣が身についています。

子どもスポーツの指導者研修が充実するとともに、家族を含めた子どもスポーツを支える仕組みが充実することによって、子どものスポーツをする機会が拡充して、子どもたちの体力が向上しています。

取組みの方向性

(1) スポーツ機会の充実による体力の向上

スポーツをする機会の充実によって、子どものスポーツへの関心を高め、スポーツに取り組む習慣の形成を通じて、子どもの体力向上に取り組めます。

〔事業展開〕

- ・「幼児期運動指針」に従ったプログラム開発を支援
- ・子どもスポーツ団体への支援
- ・子どもの体力測定プログラムの実施

(2) スポーツの楽しさや魅力が伝わる取組みの推進

子どもにスポーツの楽しさや魅力を伝えるイベント等を支援し、スポーツに親しむ資質・能力を育てる取組みの充実を図ります。

〔事業展開〕

- ・スポーツの楽しさや魅力が伝わるイベント等の支援
- ・かなざわスポーツフェスティバル^(※注釈)の開催
- ・公民館などの地域スポーツ活動へのスポーツ指導者派遣支援

(3) スポーツ指導者育成の充実

スポーツ関係団体等と連携を図り、子どもを指導するスポーツ指導者への研修プログラムを支援します。指導者育成を推進するとともに指導の資質向上を図る仕組みづくりに取り組めます。また、適正な子どものスポーツのあり方を示す子どものスポーツ実施ガイドラインの策定を支援します。

〔事業展開〕

- ・子どもを指導するスポーツ指導者を対象とした研修プログラムの支援
- ・子どものスポーツ実施ガイドラインの策定への支援

【10年後の姿】

スポーツが人を育て、スポーツがまちづくりを促進する意識が共有され、スポーツを支援する個人と組織が増加しています。

金沢マラソンや東京オリンピック・パラリンピックの開催効果が実感されるとともに、スポーツコミッションの設立を通じた各種スポーツ交流事業が拡大しています。また、地元プロスポーツチームの活躍とそれを応援する市民の輪が広がり、スポーツとまちづくりの融合が推進しています。

その結果、金沢市民のスポーツへの関わり方が拡大し、スポーツをする人、スポーツをみる人、スポーツを支える人、などが互いに尊重し合い協力することによって、スポーツの発展がまちづくりに寄与することが広く理解されています。

取組みの方向性

(1) スポーツ交流事業の促進

スポーツの輪を拡げる活動やスポーツを通じたまちづくりに取り組む組織とその活動を支援します。また、スポーツを通じた地域・都市間の交流を促進させるほか、スポーツ情報を共有できる仕組みづくりを進め、市民のスポーツ交流が拡大するよう民間を含めた交流施設の充実に取り組みます。

〔事業展開〕

- ・多様なスポーツ交流を促進する市民組織の支援
- ・スポーツを通じた都市間交流事業の促進
- ・スポーツを通じたまちづくり活動の支援
- ・スポーツ情報の集約と受発信拡大のための取組み支援

(2) スポーツボランティアの育成と機会の充実

金沢マラソンなどのスポーツイベントに、市民がボランティアとして参加できるよう機会の拡大に努めます。また、スポーツボランティアの意義が広く市民に共有されるよう研修会を開催します。

〔事業展開〕

- ・スポーツボランティア研修会の開催の支援
- ・スポーツボランティアの活躍する場の提供促進

(3) 地元プロスポーツへの支援拡充

地元プロスポーツチームのホームゲームに多くの市民が観戦に訪れるよう周知を図るとともに、地元プロスポーツチームに対する支援策の拡充に取り組みます。

〔事業展開〕

- ・プロスポーツ応援デーの開催
- ・プロスポーツチームの広報活動への支援
- ・サポーターや応援団との連携の強化

(4) 金沢マラソンの継続開催

金沢マラソンの全国的な知名度が向上するような取り組みを促進するとともに、金沢マラソンを通じたまちづくりに取り組みます。

(5) スポーツイベントの誘致に向けたスポーツコミッションの設立

スポーツ資源や観光資源を生かしたスポーツツーリズム^(※注釈)を推進するため、関係団体等と連携したスポーツコミッション^(※注釈)を設立します。国際的・全国的な大型スポーツイベントやスポーツ合宿の誘致とスポーツ交流の拡大に取り組みます。

〔事業展開〕

- ・スポーツコミッションの設立
- ・大型スポーツイベントやスポーツ合宿の誘致
- ・スポーツツーリズムの展開

(6) 東京オリンピック・パラリンピック開催を活かしたスポーツ交流の促進

東京オリンピック・パラリンピック開催時の事前キャンプ地誘致に取り組みます。また、関係団体等と連携し、オリンピック関連イベントを開催することで、その波及効果が広がるよう努めるとともに、オリンピック・パラリンピック終了後もその波及効果が持続するよう努めます。

〔事業展開〕

- ・東京オリンピック・パラリンピック事前キャンプ地の誘致
- ・東京オリンピック・パラリンピック情報の集約と提供
- ・東京オリンピック・パラリンピック関連イベントの開催
- ・東京オリンピック・パラリンピック波及効果の持続

(7) スポーツに関する情報等の提供と活用

医科学を含めたスポーツに関する情報等を広く発信するために、高等教育機関や関係団体等と連携して情報の収集に努めます。スポーツに関する統計データを整理し公表するなど、スポーツ情報の活用と提供に努めます。

〔事業展開〕

- ・ 医科学等の高等教育研究機関との連携によるスポーツ情報の提供
- ・ スポーツに関する統計データの集約と提供

基本目標

4

障がいのある人等のスポーツ活動の促進と環境の整備

【10年後の姿】

障がいのある人やスポーツに参加しづらい人のニーズに応じた配慮が拡大するとともに、高齢者スポーツ団体、障がい者スポーツ団体、女性スポーツ団体等との連携が図られ、スポーツに親しむ環境が整備されています。

取組みの方向性

(1) 市とスポーツ関係団体等との連携による環境の整備

高齢者スポーツ団体、障がい者スポーツ団体、女性スポーツ団体等と連携し、すべての人々がそれぞれの関心や能力に合わせて、気軽に楽しくスポーツに親しむ環境を整備します。また、スポーツに参加しづらい人に配慮したプログラムの開発と実施を支援します。

〔事業展開〕

- ・ スポーツ施設のバリアフリー化の拡大
- ・ スポーツに参加しづらい人へ配慮したプログラムの提供
- ・ スポーツ関係団体との連携強化

※各基本目標に対する取組みの方向にある〔事業展開〕には、既存事業のほか、10年後の姿に向けての検討事業を含む。

1 計画の推進

本計画の推進にあたっては、市民、スポーツ関係団体、行政が協働で実践していくことが必要です。このため、下記のとおり各々の役割を明確にし、計画の推進を図ります。

【市民の目標】

- ▶ 本計画の趣旨を理解し、スポーツに主体的に取り組めます。
- ▶ スポーツの推進のため、関係諸団体に協力して取り組めます。

【スポーツ関係団体の努力】

- ▶ 広報活動に協力し、計画の周知と目標達成に協働連携して取り組めます。
- ▶ 本計画が実現できるよう、関係諸団体とのネットワークを形成し、計画の推進に協力して取り組めます。

【金沢市の責務】

- ▶ 各年度の具体的取り組み課題を示したロードマップを作成し、計画的かつ確実に実現できるよう取り組めます。
- ▶ 本計画の目標が広く市民に理解され、広く周知される広報活動に取り組めます。
- ▶ 本計画が確実に推進されるよう評価項目を定めるとともに、定期的な点検を実施します。

2 計画の評価と見直し

本計画の評価にあたっては、スポーツ関係団体と連携を密にし、基本目標ごとの進捗状況を把握するとともに、必要に応じて事業(取組み)を見直し、改善を行うことが必要となります。そこで、金沢市スポーツ推進審議会に諮り、事業(取組み)の改善策を検討・協議するとともに、評価や見直しの提案を受けながら計画の管理にあたります。

スポーツの定義

本計画では、スポーツを単に勝利を求める競争的な身体活動に限定するのではなく、スポーツそれ自身の楽しさや仲間との交流を求めて実施するレクリエーション活動、健康を求めて実施する自然の中での身体活動や体力づくりのためにフィットネスクラブで行うエクササイズ、また、日常生活の中で積極的に歩いたり体操をしたりする運動の総体を指してスポーツと定義します。

かなざわスポーツフェスティバル

市民にスポーツに親しむ機会を拡大させるため、様々な種目のスポーツ体験や子どもたちの運動能力を計測するなどの多種目体験型のスポーツイベントのことです。

トップスポーツ

オリンピックや国民体育大会などトップレベルのスポーツのことです。

トップアスリート

トップクラスで活躍することを目指し、トップスポーツに取り組んでいる選手のことです。

スポーツ大使

スポーツの分野で活躍している金沢市にゆかりのある方に委嘱する称号であり、本市のスポーツの推進や都市イメージの向上につながる活動をおこなっていただくものです。

スポーツコミッション

スポーツイベント等の誘致活動を行うとともに、開催に必要な情報の提供や、様々なサポートを行うコーディネーターとしての機能と、誘致した主催者と共にイベントを運営するプロモーターとしての機能を持つ組織のことです。

スポーツツーリズム

プロスポーツなどの観戦やマラソンなどのスポーツイベントへの参加にあわせ、開催地とその周辺を観光する旅行スタイルであり、交流人口の拡大と地域経済への波及効果などをめざす取り組みのことです。

資料編

1. 金沢市スポーツ推進計画策定経過

年月日	会 議	内 容
平成26年		
5月1日	第1回策定検討会	検討会委員の任務と方針の確認
5月19日	第2回策定検討会	市民意識調査項目の検討
6月9日	第3回策定検討会	現振興計画の進捗及び評価の確認
6月30日	第4回策定検討会	計画案の検討(取組みの方向性)
6月30日～ 7月20日	市民意識調査の実施	市民意識調査(各校下毎に男女・年齢別に無作為に抽出、5,000人対象、回答1,990人)
7月14日	第5回策定検討会	計画案の検討(取組みの方向性)
8月4日	第6回策定検討会	計画案の検討(構成、項目の確認)
8月18日	第1回審議会	計画策定体制、スケジュールについて報告 計画構成案について審議
10月20日	第7回策定検討会	計画の素案(基本理念、目標)の検討
11月10日	第8回策定検討会	計画の素案(基本理念、目標、施策)の検討
12月8日	第2回審議会	計画の骨子案について審議
平成27年		
1月20日	庁内ワーキング	計画の骨子案について確認
1月30日～ 2月28日	パブリックコメント	市民から計画の骨子案(趣旨、方針、基本目標、取組みの方向性)への提案募集 意見3件
2月18日	教育委員会定例会議	計画の策定概要及び骨子案について報告
3月2日	第9回策定検討会	計画案の検討(最終案)
3月24日	第3回審議会	計画の策定について審議

2. 金沢市スポーツ推進計画策定検討会委員(7人)

(順不同、敬称省略)

役職名	氏 名	所属・分野等
座 長	佐川 哲也	金沢大学人間社会研究域人間科学系 教授
委 員	筒井 昭好	金沢市体育協会 副理事長
委 員	岡本 聡	公益財団法人金沢市スポーツ事業団 主事
委 員	松岡さつき	株式会社エイム 取締役営業統括部長
委 員	前川 明美	金沢市スポーツ推進委員協議会 副会長
委 員	竹井早葉子	NPO法人かなざわ総合スポーツクラブ クラブマネージャー
委 員	薬子 利恵	ツエーゲン金沢サポーターズクラブ Z LOVERS 代表

3. 金沢市スポーツ推進審議会委員(10人)

(順不同、敬称省略)

役職名	氏名	所属・分野等
会長	佐川 哲也	金沢大学人間社会研究域人間科学系 教授
副会長	金浦 修郎	金沢市体育協会 理事長
委員	福岡 俊明	金沢市公民館体育部長連絡協議会 幹事長
委員	安宅真由美	石川県女性スポーツ協会 金沢支部長
委員	奥田 睦子	石川県障害者スポーツ指導者協議会 理事
委員	木村 和彦	金沢市中学校体育連盟 会長
委員	坂江 一郎	石川県小学校体育研究会(金沢市体育サークル)会長
委員	西尾 春美	金沢市スポーツ推進委員協議会 副会長
委員	栗原由賀子	公募委員
委員	竹下 知子	公募委員

4. 「金沢市民のスポーツ意識に関する調査」の概要

1. 調査目的

この調査は「金沢市民スポーツ振興計画」の最終年に当たり、平成26年現在の市民の運動・スポーツ実施状況等について調査し、これまでのスポーツ振興策の成果を評価するとともに、金沢市が取り組むスポーツ政策について広く市民の意見を聞き、金沢市のスポーツ推進に役立つ基礎資料の作成を目的として実施した。

2. 調査内容

- (1) 運動・スポーツ実施状況：実施の有無、実施種目、実施頻度、実施時間、運動強度、経費
- (2) 運動・スポーツ施設：利用施設、利用施設タイプ、施設までの所要時間、建設希望施設
- (3) 運動・スポーツへの取り組み：実施効果、実施理由、非実施理由、満足度、今後の展望
- (4) スポーツ関連活動頻度：テレビ・ラジオ視聴、競技場観戦、家族や知り合いの応援に行く、地元プロスポーツチームの応援に行く、新聞や雑誌を読む、家族や仲間と話す、スポーツウェアを着る、スポーツ目的の旅行をする、指導や審判をする、スポーツクラブや団体を運営する、スポーツ大会やイベントを運営する、サッカーくじを買う、競馬や競艇などに行く
- (5) 同好会・チームやスポーツクラブ・フィットネスクラブへの加入状況：加入の有無、加入クラブや同窓会・チームの種類
- (6) スポーツイベントへの参加：イベント主催者ごとの参加の有無
- (7) 金沢マラソンについて：知っているか、知っていること、関わりたいか
- (8) 「総合型地域スポーツクラブ」について：聞いたことがあるか、加入希望
- (9) 地元プロスポーツチームについて：知っているか

- (10)子どものスポーツについて：子どものスポーツにおいて重要なこと
- (11)スポーツ施策：金沢市のスポーツに関する今後10年間の課題
- (12)運動・スポーツ情報：必要とする運動スポーツ情報、情報源
- (13)日常生活習慣：健康維持増進のための身体活動の実施、自己の体力評価、朝食摂取の有無、バランスの良い栄養摂取への留意、喫煙の状況、飲酒の状況、睡眠の状況
- (14)労働時間：週あたりの労働時間、一日あたりの家事時間
- (15)過去の運動・体育経験：小学時の運動愛好度、中・高校時の体育授業愛好度
- (16)個人的属性：年齢、性別、職業、住居地域

3. 調査対象

- (1)母集団：金沢市に居住する満20歳以上の男女(368.2千人)
- (2)標本数：5,000人
- (3)地点数：金沢市小学校下の全地点
- (4)抽出方法：層化二段無作為抽出法

4. 調査時期 平成26年6月30日～7月20日

5. 調査方法 郵送による質問紙調査

6. 回収結果 回収数(率) 1,990(39.8%) 有効回収数(率) 1,868(37.4%)

7. 回答状況 (性別・年代別)

表3 回答者の属性

		20代	30代	40代	50代	60代	70代	合計
男性	度数	65	103	102	161	207	206	844
	%	40.4	45.0	39.1	43.2	46.5	52.4	45.3
女性	度数	96	126	159	212	238	187	1018
	%	59.6	55.0	60.9	56.8	53.5	47.6	54.7
全体	度数	161	229	261	373	445	393	1862
	%	8.6	12.3	14.0	20.0	23.9	21.1	100.0

8. 調査報告書の作成

この調査は、金沢大学スポーツ社会学研究室(代表：人間社会研究域教授 佐川哲也)に委託し、金沢市スポーツ推進計画策定検討会において作成した調査票を配票し回収後、集計・分析を行って報告書を作成した。

5. 「金沢市民のスポーツ意識に関する調査」結果

①市民の運動・スポーツの実施状況

金沢市の20歳以上の人口368,200人（平成26年5月1日現在）のうち、週1回以上のスポーツを実施している人の割合は52.6%である。年代別にみると、60代の割合が最も高く56.9%、次いで70代の56.7%、30代の50.2%と50%を越えたが、20代（49.7%）、40代（49.4%）、50代（48.0%）は50%を割り込む結果となった。

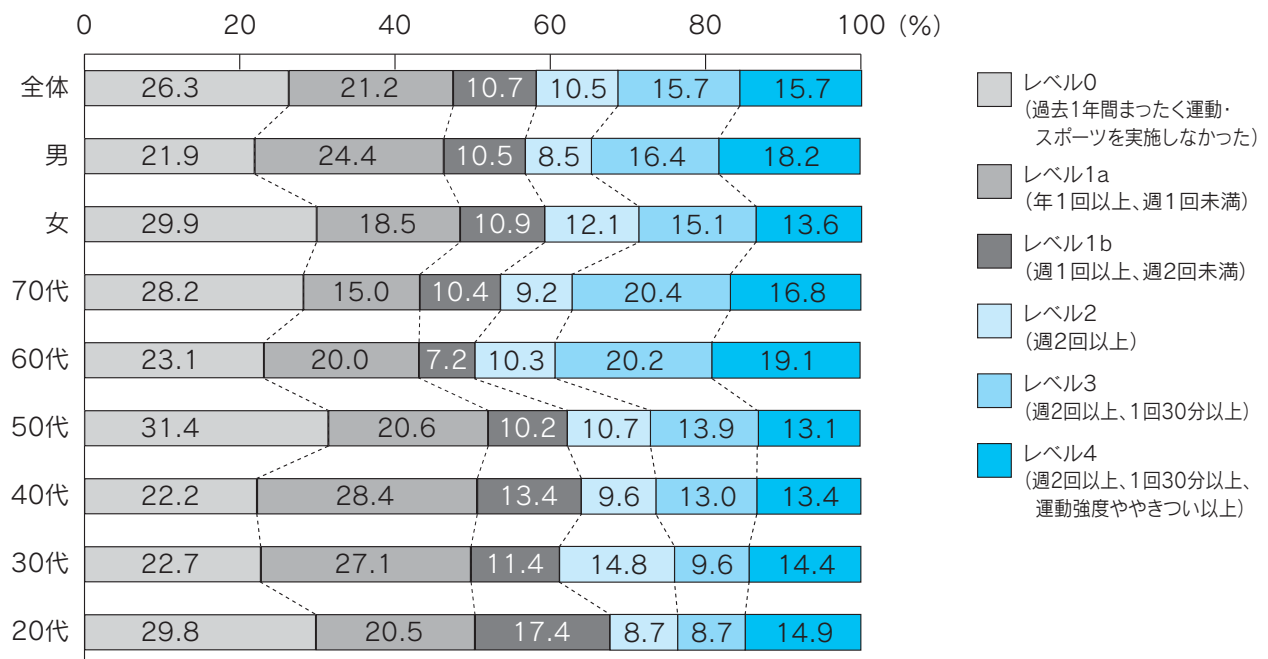


図2 性別・年代別にみた運動・スポーツの実施レベル(2014)



② スポーツの効果

表4は、運動・スポーツ実施後に感じる効果について年代別に表している。

20代から50代では「ぐっすり寝られた」が第一位であり、60代・70代でも五位までにランクインされていることから、運動・スポーツが睡眠を促す効果を実感していることが明らかとなった。また「美味しく食事ができた」は50代を除いてベスト5にランクインしており、さらに「気分がリフレッシュした」は20代から50代でランクインしており、加えて「身体の調子がよくなる」は30代から70代でランクインしていることから、運動・スポーツの実施が食事を美味しく感じさせ、また身体をリフレッシュさせ、身体の調子をよくする効果も感じていると解釈してよい。健康の三要素である「睡眠」「栄養」「運動」うち、運動こそが「睡眠」と「栄養(食事)」を促進する優れた要素である。

この項目は今回初めて採用した項目であるため前回調査と比較することはできないが、運動・スポーツの効用を理解する上で重要な項目であると理解される。

表4 年代別にみた運動・スポーツ実施後に感じる効果2014(複数回答)

(%)

順位	20代	30代	40代	50代	60代	70代
1	ぐっすり寝られた(54.5)	ぐっすり寝られた(48.8)	ぐっすり寝られた(41.4)	ぐっすり寝られた(39.9)	気持ちが落ち着いていた(47.3)	美味しく食事ができた(49.3)
2	気分がリフレッシュした(52.7)	気分がリフレッシュした(46.5)	美味しく食事ができた(39.9)	新陳代謝が高進した(38.7)	ぐっすり寝られた(42.3)	身体の調子がよくなった(48.9)
3	美味しく食事ができた(50.0)	美味しく食事ができた(42.4)	気分がリフレッシュした(39.4)	気持ちが落ち着いていた(38.3)	身体の調子がよくなった(37.8)	笑って親密さが深まった(47.1)
4	笑って親密さが深まった(38.2)	気持ちが落ち着いていた(31.4)	気持ちが落ち着いていた(35.0)	身体の調子がよくなった(37.2)	笑って親密さが深まった(37.5)	ぐっすり寝られた(45.7)
5	だんだん上達してきた(27.3)	身体の調子がよくなった(31.4)	身体の調子がよくなった(30.5)	気分がリフレッシュした(36.4)	美味しく食事ができた(37.5)	気持ちが落ち着いていた(43.8)

③ 運動・スポーツ実施理由

30代・40代を除くすべての年代で「健康のため」と回答した者が最も多くなった。その割合に注目すると、高年代ほど数値が高く、健康志向の傾向が強い。次いで、若年代では「気晴らしや気分転換のため」「運動不足解消のため」が、高年代では「運動不足解消のため」が高くなっていった。いずれの年代も生理的な理由が上位を占めており、市民が生理的な目的を主たる理由として、運動・スポーツを親しんでいることが明らかとなった。

表5 年代別にみた運動・スポーツの実施理由2014(複数回答)

(%)

順位	20代	30代	40代	50代	60代	70代
1	気晴らしや気分転換のため(62.5)	運動不足解消のため(58.3)	健康のため(60.0)	健康のため(69.6)	健康のため(76.9)	健康のため(88.8)
2	健康のため(51.8)	健康のため(57.7)	運動不足解消のため(58.0)	運動不足解消のため(55.8)	運動不足解消のため(59.9)	運動不足解消のため(67.4)
3	運動不足解消(50.9)	気晴らしや気分転換のため(52.0)	体力の維持増進のため(42.9)	体力の維持増進のため(42.7)	体力の維持増進のため(54.7)	老化防止のため(67.4)
4	体力の維持増進のため(40.2)	体力の維持増進のため(50.9)	気晴らしや気分転換のため(41.0)	ストレス解消のため(42.7)	老化防止のため(50.6)	体力の維持増進のため(52.6)
5	ストレス解消のため(37.5)	ストレス解消のため(36.6)	ストレス解消のため(32.2)	気晴らしや気分転換のため(38.8)	気晴らしや気分転換のため(42.1)	友人との交流やコミュニケーション(35.1)

④ 運動・スポーツの非実施理由

70代を除くすべての年代で「仕事が忙しくて時間がないため」が最も高い割合を示した。同様に「機会がないため」が上位を占めており、運動・スポーツを実施しない理由は、「時間」と「機会」の不足であることが明らかとなった。

年代別の特徴をみると、20代では「仲間がいないため」「やる気がない、面倒くさいため」がベスト5にランクインしており、運動・スポーツに対して消極的であることが推察される。また、子育て世代である30代・40代では「家事育児が忙しくて時間がないため」「お金がかかるため」が高い割合を示し、高年代では「高齢のため」「体調不良、または病気のため」「生活の中で自然にやっているため」が高い割合を示している。

表6 年代別にみた運動・スポーツの非実施理由 2014(複数回答) (%)

順位	20代	30代	40代	50代	60代	70代
1	仕事が忙しくて時間がないため(62.0)	仕事が忙しくて時間がないため(49.1)	仕事が忙しくて時間がないため(61.7)	仕事が忙しくて時間がないため(53.0)	仕事が忙しくて時間がないため(36.4)	高齢のため(49.1)
2	機会がないため(50.0)	機会がないため(37.7)	機会がないため(35.0)	機会がないため(29.1)	体調不良または病気のため(21.5)	生活の中で自然にやっているため(32.1)
3	仲間がいないため(44.0)	家事育児が忙しくて時間がないため(35.8)	お金がかかるため(35.0)	疲れやすい、体力がないため(23.9)	機会がないため(19.6)	体調不良または病気のため(27.7)
4	やる気がない、面倒くさいため(42.0)	やる気がない、面倒くさいため(32.1)	疲れやすい、体力がないため(28.3)	お金がかかるため(23.1)	やる気がない、面倒くさいため(19.6)	疲れやすい、体力がないため(21.4)
5	疲れやすい、体力がないため(36.0)	お金がかかるため(30.2)	家事育児が忙しくて時間がないため/やる気がない、面倒くさいため(25.0)	やる気がない、面倒くさいため(19.7)	生活の中で自然にやっているため(19.6)	運動・スポーツ以外のことをしているため(19.6)

⑤ 運動・スポーツの実施種目

20代から40代では「散歩(ぶらぶら歩き)」が第一位となり、2009年調査と変動がなかったが、50代から70代では「ウォーキング」が「散歩(ぶらぶら歩き)」を上回る結果となった。50年代以上では運動に対する意識が向上し、よりアクティブな運動へ移行したものと理解される。若年代では「ウォーキング」が、高年代では「散歩(ぶらぶら歩き)」が第二位を占めている。さらに、30代以上では第三位がいずれも「体操」という結果であったが、20代では「ジョギング・ランニング」がベスト5にランクインしており、ここでもアクティブ志向が推察される。

表7 年代別にみた運動・スポーツの実施種目 2014(複数回答) (%)

順位	20代	30代	40代	50代	60代	70代
1	散歩(ぶらぶら歩き)(32.9)	散歩(ぶらぶら歩き)(31.1)	散歩(ぶらぶら歩き)(33.6)	ウォーキング(32.1)	ウォーキング(41.4)	ウォーキング(37.3)
2	ウォーキング(24.7)	ウォーキング(21.8)	ウォーキング(27.6)	散歩(ぶらぶら歩き)(31.6)	散歩(ぶらぶら歩き)(37.1)	散歩(ぶらぶら歩き)(36.8)
3	ジョギング・ランニング(23.4)	体操(21.8)	体操(23.6)	体操(23.6)	体操(27.9)	体操(26.2)
4	筋力トレーニング(20.9)	筋力トレーニング(19.6)	サイクリング・自転車(17.6)	ボウリング(11.4)	筋力トレーニング(11.9)	グラウンドゴルフ(14.3)
5	ボウリング(19.6)	サイクリング・自転車(17.3)	ボウリング(15.2)	サイクリング・自転車(10.8)	登山・トレッキング(11.4)	筋力トレーニング(9.3)

⑥ 建設を希望するスポーツ施設

希望する施設の第一位は「ウォーキングコース」であり、男性が34.0%女性が47.4%であった。第二位は「多目的運動広場」、第三位は「トレーニング場」、第四位は「体育館」、第五位は「プール」、第六位は「サイクリングコース」、第七位は「ジョギングコース」と、市民の5人に1人が希望する施設は7つであることが明らかとなった。

希望第一は「ウォーキングコース」であるが、金沢市内には多数のコースが設定されている。にもかかわらず希望第一となっているのは、これらが市民には十分に認知されていない可能性があるかと推察される。新しいコースの指定と整備のほか、季節ごとに楽しめるコースの紹介やこれらのコースを活用したイベントの開催など、広報に努める必要があるだろう。ジョギングコースについても同様の対応が求められる。

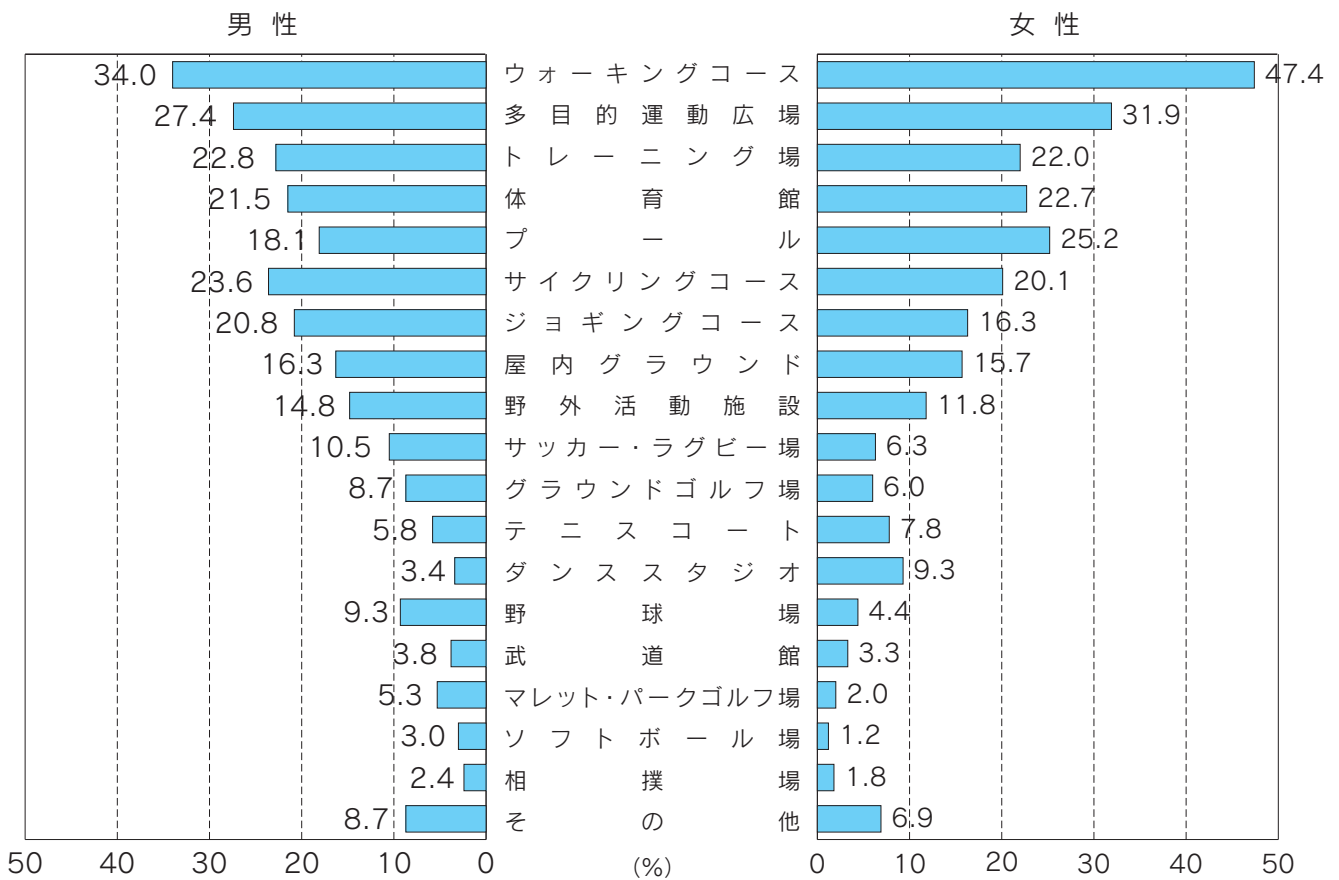


図3 市民が建設を期待する運動・スポーツ施設

⑦ 子どものスポーツに対する取り組み

子どもスポーツにおいて重要な事項は、「仲間と協力する心、思いやる心を育てる」ことが最も高く、男性で76.7%女性で83.4%であった。次いで「礼儀作法を身に付ける」が男性で74.4%女性では71.8%であった。また、「スポーツの楽しさを味わう」は男性が68.1%女性が76.2%であり、「努力を続ける大切さを学ぶ」は男性が60.5%女性が67.3%であった。以上4項目は男女ともに6割以上が重要であり、多くの市民が期待している事項であると理解される。

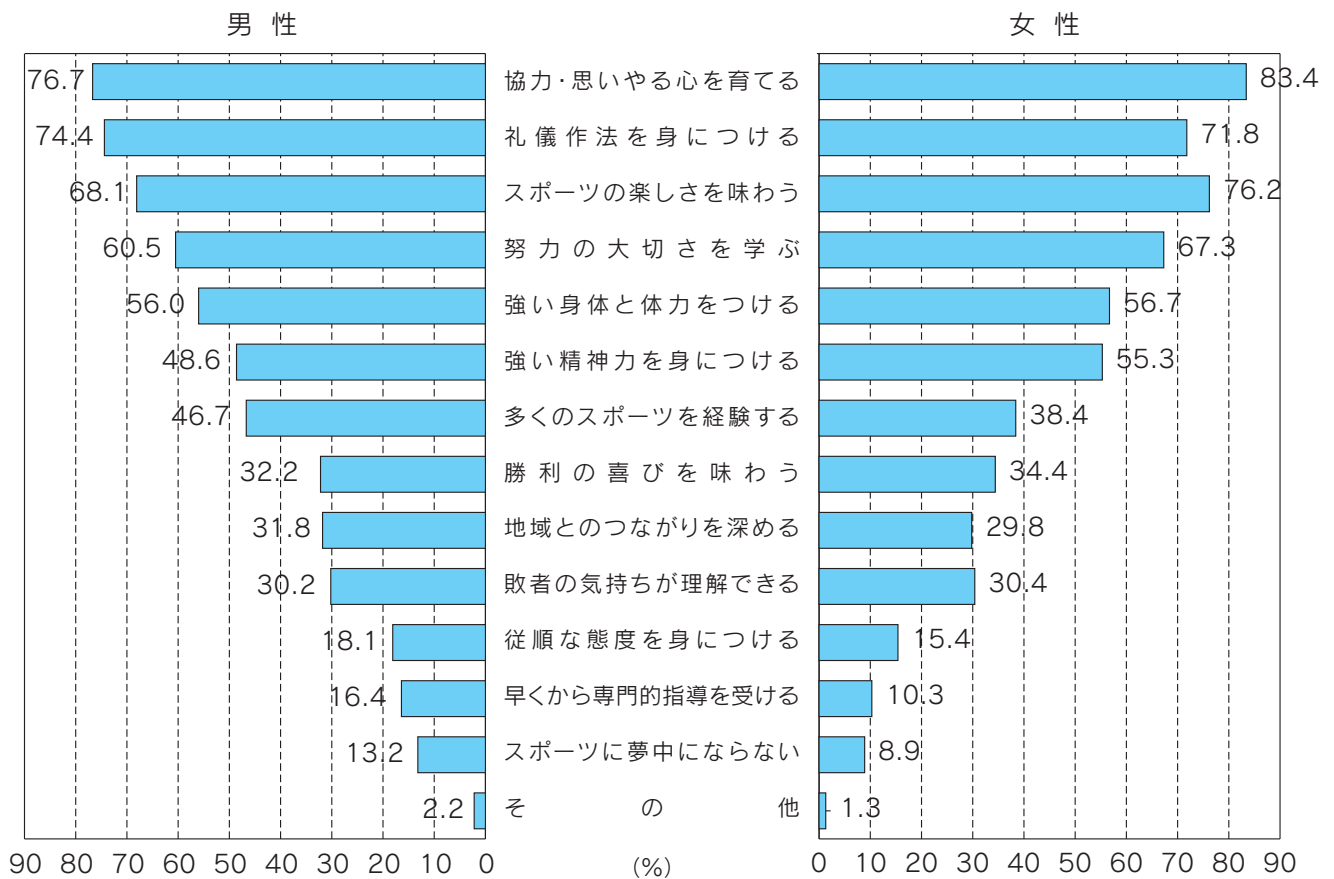


図4 子どもスポーツに対する重点事項(2014)

⑧ 向こう10年間のスポーツ政策課題

市民が最も重要であると考えている政策課題は「子どもの体力向上」であり、男性では49.8%、女性では50.0%であった。第二位は「スポーツ施設利用法の工夫」であり、第三位は「スポーツ指導者の養成」、第四位は「スポーツ施設の建設」、第五位は「学校運動部活動の充実」、第六位は「学校開放施設の利用拡大」であった。以上の6課題は、金沢市民の5人に1人以上が重要であると指摘するスポーツ政策である。

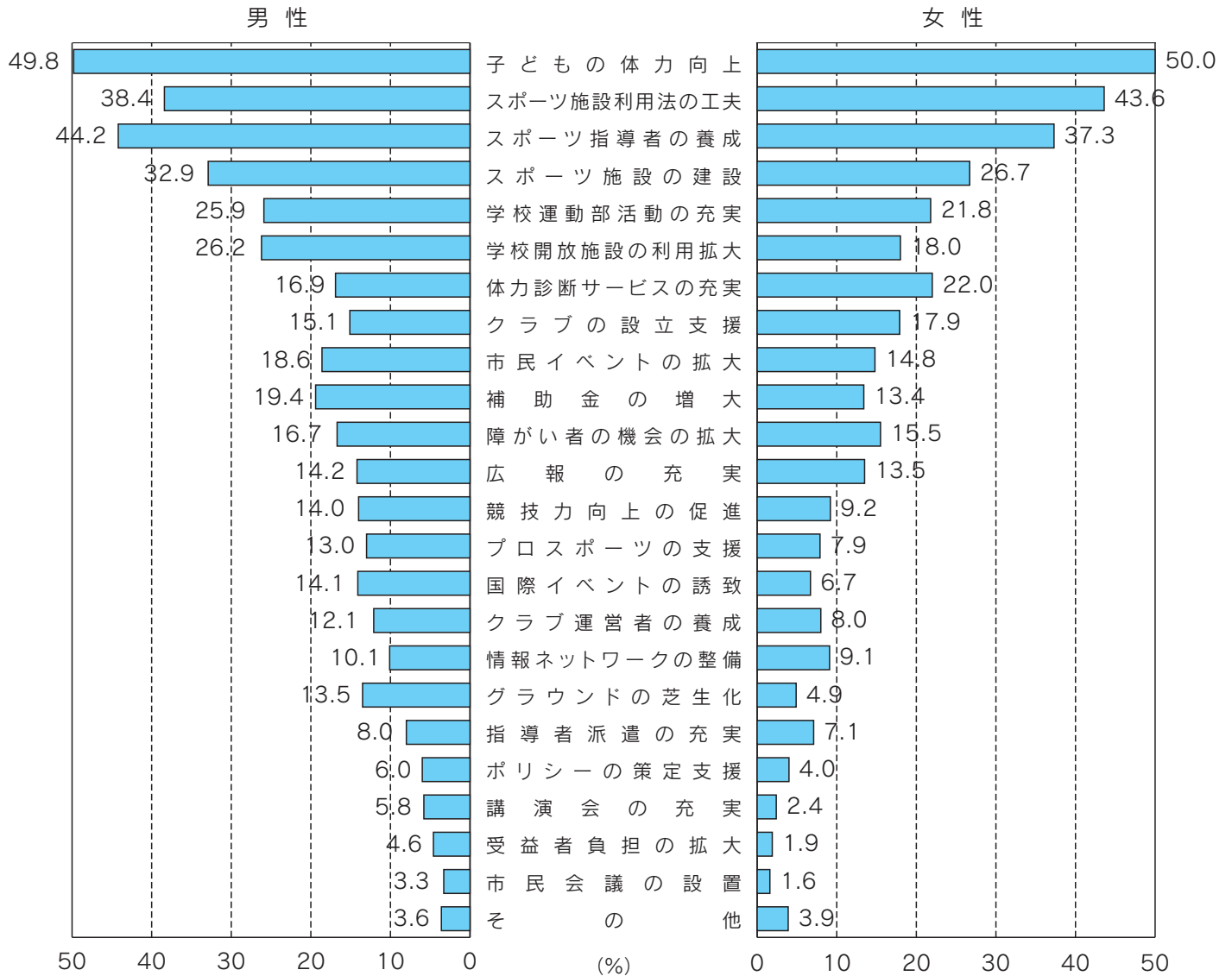


図5 金沢市民が期待する向こう10年間のスポーツ政策重点課題(2014)

⑨ 金沢に「プロスポーツチーム」があることの認知率

全体では「ツエーゲン金沢と石川ミリオンスターズの両方を知っている」が最も高く89.3%であった。「ツエーゲン金沢」あるいは「石川ミリオンスターズ」のどちらかを知っているを含めた「プロスポーツチームがあることを知っている」者の割合は、96.1%であり、金沢市民のほとんどが金沢にプロスポーツチームがあることを知っていることが明らかとなった。

一つもしくは二つのプロチームを知っている者に注目して男女を比較すると、男性では97.6%、女性では94.8%が知っており、男性が僅かに高いものの男女差はないに等しいと理解されよう。

年代を比較すると、40代が最も高く99.6%、次いで、30代が97.8%であった。70代が最も低く91.3%であった。

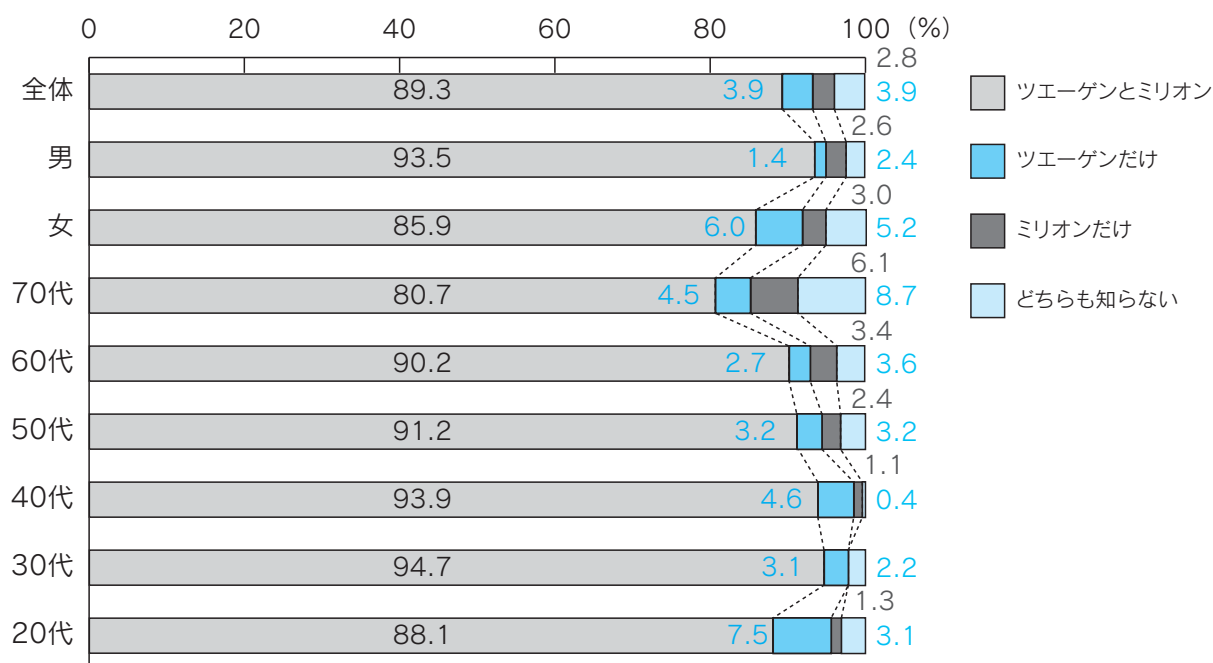


図6 金沢に「プロスポーツチーム」があることの認知率

⑩ 金沢マラソンに対する認知率

金沢マラソンの開催について「知っている」と回答した者の割合は、全体で91.7%であった。

「知っている」に注目して男女差を比較すると、男性が91.6%、女性が91.7%であり、男女に違いは認められなかった。

「知っている」に注目して年代差を比較すると、60代が最も高く94.5%、50代が94.3%と、40代以上では90%を超えて非常に高い値を示した。20代と30代においては80%台と認知率がやや低下する傾向であった。

金沢マラソンについての広報の成果が十分に確認できる結果であると推察される。

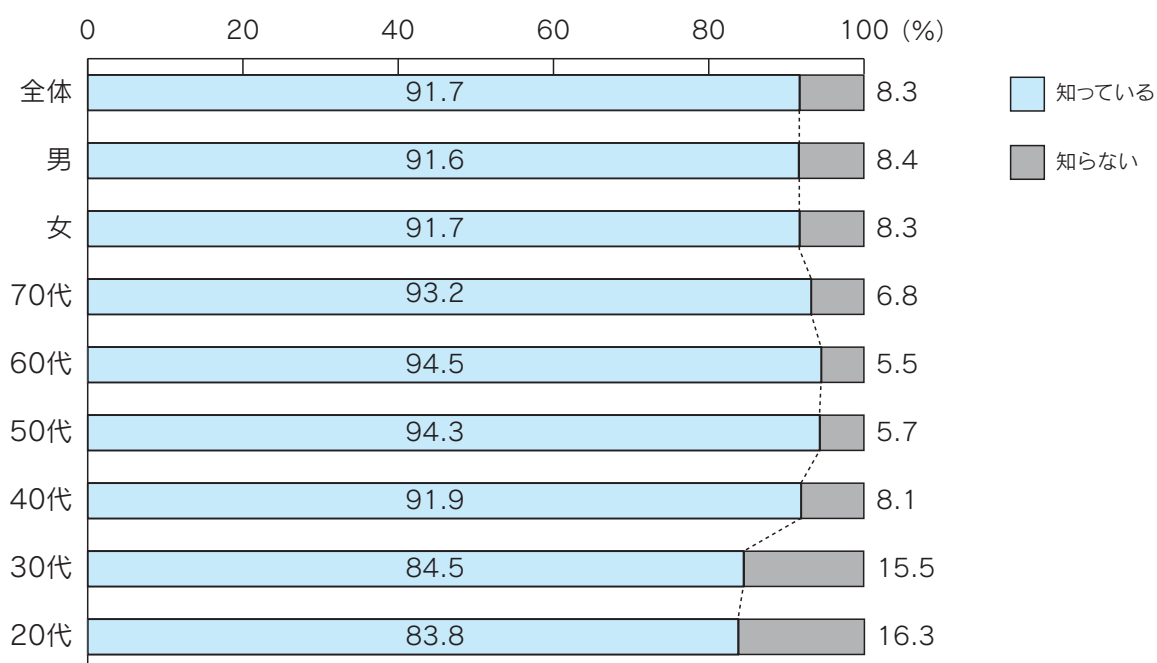


図7 金沢マラソンに対する認知率

⑪ 運動・スポーツ情報を得ているメディア

男性では「新聞」が最も高く82.0%であり、次いで「テレビ」が74.5%であった。女性では「新聞」が最も高く77.5%であり、次いで「テレビ」が74.8%であった。この新聞とテレビは男女に共通した傾向であり、運動・スポーツを問わず家庭での二大情報源となっていると言えよう。しかし、新聞に市民スポーツの大会結果などが掲載されることはあっても、テレビで市民スポーツの案内情報が流れることは少なく、市民スポーツ媒体としては必ずしも適しているとは言えないであろう。

そのほか、男性は「PC・コンピュータ」が31.8%、「雑誌・図書」が23.8%、「ラジオ」が20.4%であった。女性では「口コミ」がやや高く26.3%であった。最近では、携帯やスマートフォンを活用したツイッターやLINEなどのSNS（ソーシャル・ネットワーク・システム）が注目されているが、男性で16.9%女性で13.5%とまだまだ高い数値ではない。市民スポーツ情報の受発信には、まだまだ課題があると思われる。

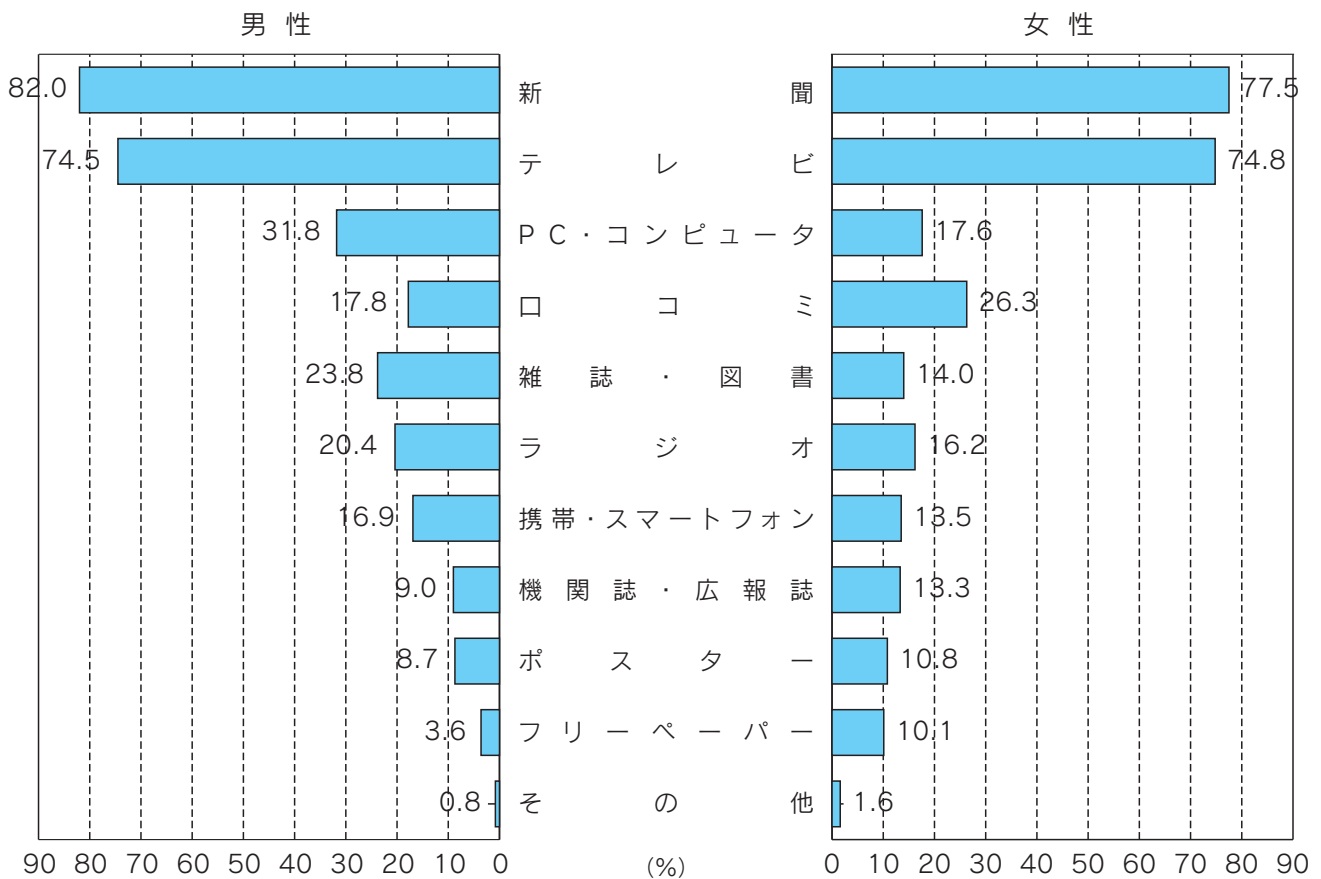


図8 運動・スポーツ情報を得ているメディア

金沢市スポーツ推進計画

2015年（平成27年）3月発行

- 発行 金沢市
 - 編集 市民局市民スポーツ課
 - 問合せ 〒920-8577 金沢市広坂1丁目1番1号
TEL 076-220-2443 FAX 076-261-0257
E-mail sports@city.kanazawa.lg.jp
-